

## 安全データシート

## 2,6-ジエチルアニリン

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名 : 2,6-ジエチルアニリン  
CB番号 : CB6259518  
CAS : 579-66-8  
EINECS番号 : 209-445-7  
同義語 : 2,6-ジエチルアニリン

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 医薬・農薬中間体、樹脂原料  
推奨されない用途 : なし

## 会社ID

会社名 : Chemicalbook  
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟  
電話 : 400-158-6606

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日

GHS改訂4版を使用

H25.9.19、政府向けGHS分類ガイダンス(H25.7版)を使用

## 健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分4

## 2.2 注意書きも含むGHSラベル要素

## 絵表示

GHS07	GHS08

## 注意喚起語

警告

## 危険有害性情報

H302 飲み込むと有害。

注意書き

応急措置

P301 + P312 + P330 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。

## 2.3 他の危険有害性

なし

---

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: 2-Amino-1,3-diethylbenzene
化学特性(示性式、構造式 等)	: C10H15N
分子量	: 149.23 g/mol
CAS番号	: 579-66-8
EC番号	: 209-445-7
化審法官報公示番号	: 3-129
安衛法官報公示番号	: -

---

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所に移す。呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。医師に相談する。

皮膚に付着した場合

石けんと多量の水で洗い流す。医師に相談する。

眼に入った場合

予防措置として、水で眼を洗浄する。

飲み込んだ場合

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。医師に相談する。

### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

## 5.2 特有の危険有害性

窒素酸化物(NOx)

炭素酸化物

## 5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて自給式呼吸装置を装着する。

## 5.4 詳細情報

データなし

---

# 6. 漏出時の措置

## 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

保護具を使用する。蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。十分な換気を確保する。個人保護については項目 8 を参照する。

## 6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

## 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の吸収材に吸収させ、有害な廃棄物として処分する。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

## 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

# 7. 取扱い及び保管上の注意

## 7.1 安全な取扱いのための予防措置

### 安全取扱注意事項

皮膚や眼への接触を避けること。蒸気やミストの吸い込みを避けること。

### 衛生対策

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。注意事項は項目2.2を参照。

## 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

### 保管クラス

保管クラス(ドイツ)(TRGS 510): 10: 可燃性液体

### 保管条件

冷所に保管。容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。空気および光に反応する。不活性ガス下で取り扱い、貯蔵する。

## 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

### 8.2 曝露防止

#### 適切な技術的管理

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。

#### 保護具

##### 眼 / 顔面の保護

顔面シールドおよび保護メガネ NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

##### 皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

フルコンタクト

材質: フッ素ゴム

最小厚: 0.7 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Vitoject? (KCL 890 / Aldrich Z677698, Size M)

飛沫への接触

材質: 天然ラテックス/クロロプレン

最小厚: 0.6 mm

破過時間: 30 min

試験物質: Lapren® (KCL 706 / Aldrich Z677558, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法について許可を受けていると理解すべきではない。

##### 身体の保護

化学防護服, 特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選択しなければならない。

##### 呼吸用保護具

リスクアセスメントによりろ過式呼吸用保護具が適切であると示されている場所では、工学的制御のバックアップとして、多目的直結式 (US) または ABEK 型 (EN14387) 呼吸用保護具カートリッジ付き全面形呼吸用保護具を使用する。呼吸用保護具が唯一の保護手段である場合、全面形送気マスクを使用する。NIOSH (US) または CEN (EU) などの適切な政府機関の規格

で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状 液体

色 黄色

臭い 情報なし

臭いのしきい(閾)値 情報なし

pH 情報なし

情報なし

情報なし

460 °C:GESTIS(2013)

log Kow= 0.95:HSDB(2013)

水:670 mg/l(26.7 °C):HSDB(2013)

0.96 kg/l(20°C):HSDB(2013)

情報なし

3.83X10<sup>-3</sup> mm Hg(25 °C):HSDB(2013)

情報なし

情報なし

460 °C:GESTIS(2013)

109 °C(密閉式):GESTIS(2013)

243 °C:CRC(2010)

1.5 °C:CRC(2010)

融点・凝固点

1.5 °C:CRC(2010)

沸点、初留点及び沸騰範囲

243 °C:CRC(2010)

引火点

109 °C(密閉式):GESTIS(2013)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

460 °C:GESTIS(2013)

燃焼性(固体、気体)

情報なし

燃焼又は爆発範囲

情報なし

### 蒸気圧

3.83X10<sup>-3</sup> mm Hg(25 °C):HSDB(2013)

### 蒸気密度

情報なし

### 比重(相対密度)

0.96 kg/l(20°C):HSDB(2013)

### 溶解度

水:670 mg/l(26.7 °C):HSDB(2013)

### n-オクタノール/水分配係数

log Kow= 0.95:HSDB(2013)

### 自然発火温度

460 °C:GESTIS(2013)

### 分解温度

情報なし

### 粘度(粘性率)

情報なし

---

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

データなし

### 10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

データなし

### 10.4 避けるべき条件

データなし

### 10.5 混触危険物質

強酸化剤

### 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

#### 経口

ラットのLD50値 1,800 mg/kg (HSDB (Access on September 2013)) は区分4に該当し、2,690 mg/kg (HSDB (Access on September 2013)) はJIS分類基準の区分外 (国連分類基準の区分5) に該当する。LD50値の最小値のある区分を採用し、区分4とした。

#### 経皮

データ不足のため分類できない。なお、ウサギのLD50値として、1,085 mg/kg (HPVIS (Access on October 2013)) の報告がある。この情報はList外の情報源であるため分類に用いなかった。

#### 吸入:ガス

GHSの定義における液体である。

#### 吸入:蒸気

データ不足のため分類できない。

#### 吸入:粉じん及びミスト

データ不足のため分類できない。

### 皮膚腐食性及び皮膚刺激性

データ不足のため分類できない。

### 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

データ不足のため分類できない。

### 呼吸器感作性

呼吸器感作性:データ不足のため分類できない。

### 皮膚感作性

皮膚感作性:データ不足のため分類できない。

### 生殖細胞変異原性

データ不足のため分類できない。すなわち、*in vivo*のデータはなく、*in vitro*では、細菌の復帰突然変異試験で「あいまいな結果」と判定されている (NTP DB (Access on August 2013))。なお、細菌の復帰突然変異試験で陰性及び「あいまいな結果」、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験 (hprt遺伝子座) で陰性との情報がある (HPVIS (Access on September 2013))。これらの情報はList外の情報源であるため分類に用いなかった。

### 発がん性

データ不足のため分類できない。

### 生殖毒性

データ不足のため分類できない。なお、HPVIS (Access on October 2013) では、ラットを用いた経口経路での発生毒性試験において胚毒性、催奇形性はみられていない。胎児毒性 (胎児体重の減少、胸骨の骨化遅延) が母動物毒性のみられる500 mg/kg bw/day でみられている。これらの情報はList外の情報源であるため分類に用いなかった。

### 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

データ不足のため分類できない。なお、ラットの経口強制投与において一時的な行動抑制、筋力低下、立毛、呼吸困難がみられたとの報告が

ある (HPVIS (Access on October 2013))。ラットの吸入ばく露においてはガイダンスの区分1の濃度で (0.2 mg/L) で巣状肺炎がみられた (HPVIS (Access on October 2013))。ウサギへの経皮ばく露においては、呼吸抑制、体温低下、昏睡等がみられたが後に回復したとの報告がある (HPVIS (Access on October 2013))。これらの情報はList外の情報源であるため分類に用いなかった。

### 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データ不足のため分類できない。なお、EPA HPV-IS (Access on October 2013) に以下の経口、経皮及び吸入ばく露による試験結果が報告されている。すなわち、ラットの90日間混餌投与試験において、区分外相当の高用量 (0.72%; 360 mg/kg/day) までばく露してもコレステロールの上昇と肝臓重量の増加がみられたのみであった。ラットに28日間経皮ばく露した試験では、区分2に該当する用量 (93.3 mg/kg/day (90日換算)) で肝臓 (重量増加、血清GPT及びGOT上昇) への影響がみられている。また、ラットに本物質の蒸気を30日間又は90日間吸入ばく露した試験では、最高濃度の0.1 mg/L まで毒性影響はみられていない。しかし、イヌに0.27 mg/Lの蒸気を20回ばく露 (0.06 mg/L (90日換算)) した試験において、ばく露した2例中1例が死亡し、死亡例、生存例とも肝臓 (び慢性壊死) 及び腎臓 (尿管上皮の変性) に病理変化が認められている。これらの情報はList外の情報源であるため分類に用いなかった。

### 吸引性呼吸器有害性

データ不足のため分類できない。

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

データなし

### 12.2 残留性・分解性

データなし

### 12.3 生体蓄積性

生物濃縮因子 (BCF) : 120

- 59.84 µg/l(2,6-ジエチルアニリン)

生体蓄積性 *Gambusia affinis* (カダヤシ) - 24 h

### 12.4 土壤中の移動性

データなし

### 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

### 12.6 内分泌かく乱性

データなし

### 12.7 他の有害影響

データなし

非該当

オゾン層への有害性



## 13. 廃棄上の注意

### 13.1 廃棄物処理方法

#### 製品

免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

---

## 14. 輸送上の注意

### 14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制) :- IMDG (海上規制) :- IATA-DGR (航空規制) :-

### 14.2 国連輸送名

IATA-DGR (航空規制) : Not dangerous goods

IMDG (海上規制) : Not dangerous goods

ADR/RID (陸上規制) : 非危険物

### 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID (陸上規制) :- IMDG (海上規制) :- IATA-DGR (航空規制) :-

### 14.4 容器等級

ADR/RID (陸上規制) :- IMDG (海上規制) :- IATA-DGR (航空規制) :-

### 14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR (航空規制) : 非該当

### 14.6 特別の安全対策

### 14.7 混触危険物質

国際輸送に関する国連勧告の定義上は、危険物に該当しない。

詳細情報

強酸化剤

---

## 15. 適用法令

### 消防法

第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体

### 海洋汚染防止法

有害液体物質

---

## 16. その他の情報

## 略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

## 参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト [http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request\\_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en)
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

### 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。